2021 年 6 月 8 日

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

# DBS グループ・ホールディングス（DBSM）

## 対面顧客より経費率が低いデジタル顧客割合の上昇により、利益率向上、および非金利収益の増加が期待される

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2021/12期1Q（1-3月）は、総収益が前年同期比4.3%減、総費用が同2.0%増、貸倒引当金繰入額が同99%減、純利益が同72.4%増。
- 純金利収益は純金利マージンの低下が響き同15.1%減だったが、純手数料およびコミッション収益は同14.5%増と堅調に伸びた。
- 経費率が低いデジタル顧客割合上昇により、利益率向上のほか、金融商品の取引種類・売買回数増に伴う非金利収益増が期待される。

**What is the news?**

4/30発表の2021/12期1Q（1-3月）は、総収益が前年同期比4.3%減の38.54億SGD、総費用が同2.0%増の15.87億SGD、貸倒引当金繰入額が同99%減の1,000万SGD、純利益が同72.4%増の20.09億SGD。純金利収益の減少が減収に響き、経費率もインドのラクシュミ・ビラス銀行との統合費用が響き同2.6ポイント上昇悪化の41.2%となったものの、域内の景気回復を反映し、貸倒引当金繰入額が大幅に減少したことが増益に貢献した。前四半期比でも総収益が18.1%増、純利益が99%増と大幅増益。また、不良債権比率は前四半期末比0.1%ポイント低下の1.5%に改善した。

1Qの収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比15.1%減の21.07億SGD。貸出残高が同4.6%増だったものの、純金利マージン（NIM）が同0.37ポイント低下の1.49%になったことが減収に響いた。前半期比ではNIMが横ばいとなったことから0.6%減にとどまった。②純手数料およびコミッション収益は前年同期比14.5%増の9.53億SGD。ウエルスマネジメント報酬が同24.2%増、トランザクション・サービス収入が同10.0%増と増収に寄与した。前四半期比でも27.6%増。③その他の非金利収益は前年同期比11.5%増の7.94億SGDだった。

**How do we view this?**

通期会社計画は、貸出残高が前期比1桁台半ば～後半の増加、純手数料およびコミッション収益が同2桁台の増加。その一方、総費用が対2019年比3-4%増で、その内の2ポイント分はラクシュミ・ビラス銀行との統合関連である。また、貸倒引当金繰入額は前期の30.66億SGDから10億SGD未満への減少を見込む。更に、成長に向けての新たなプラットフォームとして、中国合弁事業の深圳農村商業銀行への出資、仮想通貨取引やセキュリティ・トークンの発行などに係るデジタル証券取引所などが進展中。また、今年1月に中国での合弁事業の証券会社の設立が完了した。

コロナ禍を受けた行動制限や在宅勤務の普及を受けて経費率が対面取引よりも低いネット取引の割合が増加。1Qのデジタル中心顧客の個人・中小企業全体に占める割合が2年前から5ポイント上昇の57%となった。デジタル取引顧客割合の上昇により、利益率が高まるほか、対面よりも多くの種類の金融商品を買い、売買回数も頻繁となる傾向がみられることから純手数料・コミッションなど非金利収益の増加も期待されよう。

**業績推移**　※参考レート 1SGD=82.57円

| 事業年度 | 2018/12 | 2019/12 | 2020/12 | 2021/12F | 2022/12F |
|---|---|---|---|---|---|
| 当期利益（百万SGD） | 5,577 | 6,391 | 4,721 | 6,336 | 6,843 |
| EPS（SGD） | 2.16 | 2.50 | 1.86 | 2.45 | 2.64 |
| PER（倍） | 14.05 | 12.14 | 16.31 | 12.38 | 11.49 |
| BPS（SGD） | 19.22 | 19.96 | 21.42 | 21.90 | 23.19 |
| PBR（倍） | 1.58 | 1.52 | 1.42 | 1.39 | 1.31 |
| 配当（SGD） | 1.20 | 1.23 | 0.87 | 1.13 | 1.34 |
| 配当利回り（%） | 3.96 | 4.05 | 2.87 | 3.72 | 4.42 |

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

| | | |
|---|---|---|
| 配当予想（SGD） | 1.13 | （予想はBloomberg） |
| 終値（SGD） | 30.34 | 2021/6/7 |

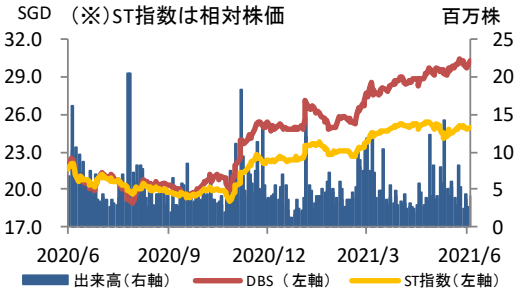
**会社概要**

シンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的で、シンガポール共和国の建国後間もない1968年にシンガポール開発銀行として設立され、1999年に持ち株会社のDBSグループ・ホールディングスが設立された。傘下のDBS銀行は、シンガポール最大手の銀行というだけでなく、2019年にユーロマネー誌で、2020年にグローバル・ファイナンス誌で「世界のベストバンク」に選出されたほか、2016年と2018年にはユーロマネー誌で「世界最高のデジタルバンク」として表彰を受けるなど、世界的にも高い評価を受けている。

香港、中国、台湾、インド、インドネシア、ベトナム、オーストラリア他へも事業や支店網を拡大し、現在では18ヶ国に所在する280以上の支店を通じて広範な与信サービス（短期運転資金の貸付、専門的な貸付など）、取引サービス（キャッシュ・マネジメント、貿易金融、保護預り業務、受託業務など）、市場金融商品（外国為替、金融派生商品など）、資本市場に関するアドバイザリー業務等を提供する。

**企業データ（2021/6/8）**

| | |
|---|---|
| ベータ値 | 1.15 |
| 時価総額（百万SGD） | 77,230 |
| 企業価値=EV（百万SGD） | - |
| 3ヵ月平均売買代金（百万SGD） | 133.3 |




（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

**主要株主（2021/6）**　（%）

| | |
|---|---|
| 1.テマセク・ホールディングス | 29.73 |
| 2.MAJU HOLDINGS PTE. LTD. | 17.92 |
| 3.CAPITAL GROUP COMPANIES INC | 4.96 |

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

**アナリスト**
笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社　〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101　　URL：http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部　李　一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則　平 14.1.25」に基づく告知事項＞
・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。